



奈良の大仏は、何でできているの



銅・すず・金などでできているんだよ。

奈良の大仏は、像の重さが約250トン、^{すわ}座^{だいざ}っている台座の重さが約130トンあります。745年に^{きそこうじ}基礎工事を始め、^{ちゆうぞう}本体の鑄造に747年から2年、形を整えるのに5年、^{かいはんくようえ}金めっきに752年から5年の、合計12年かかりました。752年に^{かいはんくようえ}開眼供養会（大仏に^{しんせい たましい}神聖な魂^{ぎしき}を入れる儀式）が行われたときは、まだ仕上げの^のとちゅうでした。作業にたずさわった^の延べ人数は、約200万人です。

銅・すず・金などを使った

大仏づくりに使われた材料は、銅が約486.63トン、すずが約8.3トン、金が約430キログラムで、^{せいれんよう}水銀や精錬用の炭も使われました。大仏や台座の銅には、^{ひそ}砒素がかなりふくまれていることから、当時、銅銭に使う銅をとっていた、^{みとう}山口県美東町の^{ながのぼりどうざん}長登銅山の銅が多く使われた、とみられています。金めっき用の金^{むつのくに}は、749年に陸奥国（東北地方）で発見されたもので、その場所は、今の宮城県^{わくや}涌谷町の^{こがねやまじんしゃ}黄金山神社の近くのです。

たびたび修理された

最初につくられた大仏は、^{おもなが}今より面長で、^{ざこう}座高もやや高かったそうです。その後、^{しん}地震や^{せんらん}戦乱でたびたびいたんだので、何度も修理されました。今の^の大仏の頭は1690年に、^の右手は1580年につくられたものです。台座も、最初は銅の台座の下に、石の台座がありました。

銅	486.63トン
すず	8.3トン
金	430キログラム

